

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：35309

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21402037

研究課題名（和文） 医療ソーシャルワーカーの教育養成に関する国際比較研究

研究課題名（英文） A tripartite study of approaches to social work education for health setting in Japan, the US and UK

研究代表者

熊谷 忠和（KUMAGAI TADAKAZU）

川崎医療福祉大学・医療福祉学部・准教授

研究者番号：30341655

研究成果の概要（和文）：本研究は、わが国の社会福祉教育養成校における、医療ソーシャルワーカーの教育養成について、国際比較（英国、米国、日本）を通してその在り方を検討するものであった。結果、①英国、米国では専門特化した領域ごとの教育養成制度はなく、ジェネリックの力量を引き上げることに向けられていた②養成カリキュラムの構成では大きい差異は認められなかった③ただし、実習教育の在り方が量的・質的ともに英国、米国と日本では大きい差異があった④その中で、英国、米国の実習教育では、その教育法としてリフレクティブ・ラーニングの取り組みが標準化していることなどが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The study examined the what should be about the medical social worker's educational training in the social work education training school in our country through the international comparison (UK-US). As a result, we could clear the following. ①There was no educational training system of each area where it specialized in the specialty in UK-US and it was turned to improving the ability of generic. ②A great difference was not admitted in the composition of the training curriculum. ③However, what should be of the practice education was both a great difference quantitatively and qualitatively with UK-US. ④In the practice learning of US-US, worked about the reflective learning standardizing as teaching method on it.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	5,700,000	1,710,000	7,410,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会福祉学

キーワード：医療ソーシャルワーカー・教育養成・国際比較

1. 研究開始当初の背景

わが国の戦後における社会福祉養成教育は、議論を経つつも基本的には英国と米国のソーシャルワーク養成教育に強く影響を受けてきたといえる。特に現在の社会福祉系大学

のカリキュラム基準の骨格が GHQ や CIE(Civil Information Education Section) の指導や勧告によって進められた「社会事業学教育基準」(1947年12月15日)にあることは歴史的事実である。その基盤の上に、わ

が国固有の歴史的背景や社会的、文化的、あるいは政治的状況などが作用して現在の社会福祉養成教育の内容に到達している。また英国や米国において、類似の萌芽があったとしても、わが国と同様に、それぞれ異なった社会的文化的状況の中で、社会福祉養成教育の発展経緯あるいは現状があるところである。とりわけ、医療ソーシャルワーカーの教育養成について、それぞれの異なる医療情勢やシステムで、どのような保健医療に特化する養成体制またカリキュラムが発展構築されてきたのか、あるいは現状があるのかを検証することは、わが国の今後の医療ソーシャルワーカーの養成教育のあり方を見定めていく上で極めて重要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、わが国の社会福祉養成教育に大きく影響を与えてきた、いわば先行例としての米国と英国のとりわけ保健医療に特化したソーシャルワーカー養成教育の動向や現状さらには課題について現地調査を含め踏み込んだ調査を実施し、わが国のソーシャルワーカーの養成教育との比較において共通点、相違点さらに適合あるいは非適合についての検証に向けてのことであった。最終的には、学術会議の提言で示された社会福祉教育のあり方についての見直しの方向を踏まえ、より実践的なソーシャルワーカーの教育養成のあり方について、わが国の現状に見合ったより相応しいプログラムモデルを提示し、一部試行を試みることにした。

3. 研究の方法

(1) 医療ソーシャルワーカーの教育養成に関して、まず英国と米国そしてわが国のそれぞれの歴史的背景や医療情勢も含む社会的情勢の中で、どのように変遷経過してきたのか、あるいは現状について、これまでの先行研究や資料収集などにより精査した。

(2) 英国・米国そしてわが国の医療ソーシャルワーカー（ないしソーシャルワーカー）養成のプログラムをもつ、社会福祉系大学（学部）の関係者（学生、担当教員、実習指導者など）に対して、実態調査、意識調査さらに聞き取り調査を行い、それぞれの教育養成カリキュラム、プログラムの実際、学生の意識、さらに教員や実習指導者の取り組みや意識を把握し、教育養成の在り方について共通点、相違点、さらに適合、取り入れの可否を検証した。

(3) わが国の実情を踏まえた教育養成プログラムを検討し一部モデル試行をした。

(4) 研究経過及び成果を英国、米国の協力大

学で報告することにより、国際的なソーシャルワーク教育について認識を共有した。

4. 研究成果

(1) 国内外の医療ソーシャルワーカーの教育養成に関する基礎資料を収集した。特に、2004年から2009年にわたる、ソーシャルワーク養成に関連する国内外の文献20篇を精査した。その結果は次のとおりであった。

米国や英国のカリキュラム基準を見る限り、医療ソーシャルワーカーの教育養成は、ソーシャルワーカーの教育養成に包括され、他のソーシャルワークの領域と同様に、実習の分野として選択する形態となっていた。特に、米国においては、領域において特化する知識や技術への関心より、ソーシャルワークの多様な理論アプローチ研究が進んでいることから、各大学の教育養成への関心はCSWEの基準をふまえ、advanceは理論アプローチをいかに活用させるかに焦点があてられ、各大学のあるいは研究者の推奨する理論アプローチの妥当性を問う研究に重点がおかれていた。また、英国においても1990年の改革以来、ソーシャルワーカーの一元化が図られて、よりgenericな教育基準が敷かれている。つまり、米国や英国における大学や大学院の教育養成においては、いわゆるジェネリックソーシャルワーク generic social workに重点が置かれているといえる。従って、本研究も、専門領域に特化した教育養成の在り方から踏み込む方法はとらず、まずgenericなソーシャルワーカーの教育養成の在り方を比較した上で、特化した教育養成について検討を進めることにした。

また、英国、米国とわが国のソーシャルワーク教育では、実習に関連した仕組みや内容に大きな違いがあることが明らかとなった。具体的には次の諸点である。①実習時間が日本は圧倒的に少ない、②日本の場合は、実習指導者の多くが認定ソーシャルワーカーでない場合が多い、③日本の場合は、実習生、実習指導者そして教員がリンクして、トライアングルができていない、④英国、米国の実習内容はソーシャルワークそのものを体験し、その専門性を学習するスタイルになっている。一方、日本の場合は、高齢者施設や児童養護施設では、ケアワークの体験型が中心となっている、⑤学生の卒業後の進路について、英国、米国では、ほとんどがソーシャルワーカーになって行くのに比べ、日本はそうではない現状がある、⑥英国、米国に比べ、日本の場合は、ソーシャルワーク学生に対しての財政的、組織的サポートが手薄であり、ソーシャルワーク育成が国家的、社会的に整備されている状況とはいえない。

(2) 英国、米国そしてわが国の協力大学にお

いて、ソーシャルワーク学生に対するソーシャルワークの意識に関するアンケート調査をおこなった。

協力大学は、ボーンマス大学（英国）、グランドバレイ州立大学（米国）、川崎医療福祉大学、関西科学福祉大学、沖縄大学、琉球大学、沖縄国際大学とした。

アンケート調査は2010年6月から7月末に実施した。その回収率は表1のとおりであった。

表1 回収率

	配票数	回収数	回収率 (%)
米国	132	132	100.0
英国	61	61	100.0
日本	1269	1123	88.5
合計	1462	1316	90.1

調査方法は、本研究の研究者らが現地へ赴き、調査対象者に直接目的などを説明した後、講義中に、集合調査法により配布、回収した。アンケート調査の調査票は、基本属性として、回答者の年齢、学年、出身地、就労経験、将来の希望進路を中心にあずねた、また、大学を選択した理由として13項目、ソーシャルワークコースを選択した理由として19項目、様々な行動に対する価値をたずねるものとして10項目を、それぞれ5件法でたずねた。また、学生、教員、実習指導者に対して、アンケート調査項目を前提として、聞き取り調査も実施した。結果として次のことが明らかとなった。①3国のソーシャルワーク学生とも、社会的貢献をしたいと考えソーシャルワーカーの仕事は社会的に満足が得られるとしている②日本学生が、人の困難は個人より社会に起因しており、国や社会はもっと力を入れるべきとしていることに対して、英国、米国学生は逆の結果であった③日本学生が政治的関心が低いことに比べ、英国、米国学生は高かった④ソーシャルワークを学ぶ動機について、日本学生は、特別の理由がない、特に学びたいと思っていなかったとする学生が、英国、米国学生に比べ多い⑤入学動機として「ソーシャルワーカーなりたかった」に対してそうでないとする学生が、日本の場合多い、英国、米国は逆であった⑥ソーシャルワーカーの仕事について、英国、米国学生は一生の仕事として誇りを持つことのできる仕事と考えているが日本学生ではそうでもないとした。

(3)英国、米国そしてわが国の協力大学を拠点として、学生、担当教員、実習指導者に対して、(2)のアンケート調査を基盤にした、ソーシャルワーク教育養成に関する聞き取り調査を実施した。

協力大学は、ボーンマス大学（英国）、ウインチェスター大学（英国）、バックスニユ

ー大学（英国）、グランドバレイ州立大学（米国）、川崎医療福祉大学、沖縄大学とした。結果として、総じて、英国、米国での学生の多くは、入口のところで、社会的なモデルの影響を受けて、すでにソーシャルワーカー（専門職）の動機がはっきりしており、入学後も、特に実習では実習指導者（ソーシャルワーカー）と大学の専門教員のサポートをうけ、ソーシャルワークそのものの体験を通じて職業像を醸成させていく、そして実際に卒業後ソーシャルワーカーとして仕事をしていく、いわば「ソーシャルワーク学生モデル」が実態としてあることを示した。これは、英国、米国では、社会との緊張感をもちつつも、社会的、教育的な体制がソーシャルワーカーという専門職が育て上げられることに同意がなされ、その体制が一定評価されていると考えられる。当然これには歴史的な積み重ねも大きく影響していると考えられる。その点、日本は、ソーシャルワーク及びソーシャルワーク教育の熟成度に関して途上国であると考えられた。また、担当教員、実習指導者の聞き取りから、英国、米国のソーシャルワーカー養成現場では、わが国の養成現場においても取り入れ可能な、実習にともなう教育方法やプログラムが展開されていることが明らかとなった。具体的には、ボーンマス大学（英国）においては、リフレクティブ・ラーニング・モデルの提唱者である、コルブの学びの循環モデル（図1）を基盤にした「実習前における実習生の自己効力感スケール」の活用、当事者グループ（action group）の実習評価への関与、三者協議（実習生、実習指導者、大学担当教員）で実習プログラムを協議するPLA（Practice Learning Agreement）モデルが展開されていた。また、グランドバレイ州立大学（米国）では、帰校日（call back）プログラムに現場の実習指導者によるセミナー方式が実施されていた。

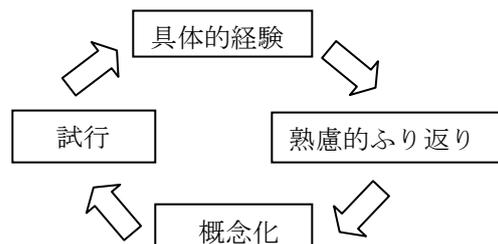


図1 コルブの学びの循環モデル(kolb, 1989)

(4)わが国の実情を踏まえた教育養成プログラムを検討し一部モデル試行をした。

2011年から2012年にかけて、川崎医療福祉大学のソーシャルワーク実習及び指導の中で、ボーンマス大学（英国）の「実習前における実習生の自己効力感スケール」、「三者協議（実習生、実習指導者、大学担当教員）で実習プログラムを協議するPLA（Practice

Learning Agreement) モデル」、またグランドバレイ州立大学 (米国) の「帰校日 (call back) プログラムに現場の実習指導者によるセミナーを設ける方式」を検討し、それぞれ大学に見合った方式に改訂、変更などして試行した。特に「3 者協議 (実習生、実習指導者、大学担当教員) による PLA モデル」は、従来の「実習指導者の打ち合わせ会」を「3 者面談 (実習生、実習指導者、大学担当教員)」の場として実施した。そこでは、実習プログラムや相互の実習を進めていく上での契約事項の確認がなされ、また実習生をとおしての実習指導者と担当教員の相互連携が深まることにつながった。ちなみにこの試みは、わが国の中では先駆的などであると考えられる。

(5) 研究経過及び成果を、英国、米国の協力大学で研究代表者らが講演することにより、国際的なソーシャルワーク教育について認識の共有をはかった。①テーマ：「日本におけるソーシャルワークの教育養成」、参加者：ボーンマス大学ソーシャルワーク関連教員 15 人、日時：2009 年 12 月 11 日、場所：ボーンマス大学 (英国)・ソーシャルワーク・社会政策センター会議室、②テーマ：「医療ソーシャルワーカーの教育養成に関する国際比較研究」、参加者：グランドバレイ州立大学ソーシャルワーク関連教員 20 人、日時：2010 年 6 月 23 日、場所：グランドバレイ州立大学デフォスセンター・レセプションホール、③テーマ「ソーシャルワーク教育の国際比較研究と日本におけるソーシャルワークの在り方について」、参加者：英国、ドイツ、フィンランドのソーシャルワークの教員、学生、関係者など 50 人、日時：2011 年 6 月 8 日、場所：ウインチェスター大学 (英国) セミナーハウス講義室。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① 熊谷忠和、生きていることの有意味感を見据えたソーシャルワーク援助の枠組み考察、最新社会福祉学研究、査読有、第 7 号、2012、1-13。
- ② 熊谷忠和、ハンセン病当事者のライフストーリーからソーシャルワークの視点を考える、医療と福祉、査読有、45 巻 1 号、2011、20-28。
- ③ 熊谷忠和、井上信次、Timothy Cleminson、医療ソーシャルワーカーの教育養成に関する日・米・英の比較研究—その全体像と展開—、川崎医療福祉学会誌、査読有、20 巻 2 号、2011、437-446。

- ④ 井上信次、熊谷忠和、ソーシャルワーカーの教育養成に関する国際比較—学生のもつ価値観の違い—、川崎医療福祉学会誌、査読有、20 巻 2 号、2011、427-435。

[学会発表] (計 4 件)

- ① 熊谷忠和「ソーシャルワーク教育の国際比較研究と日本におけるソーシャルワークの在り方」、Partnership Working in SocialWork International Perspectives、2011 年 6 月 8 日、ウインチェスター大学 (英国) セミナーハウス講義室
- ② 熊谷忠和「ソーシャルワークに関する国際比較研究—これまでの小括」、ソーシャルワーク関連教員研修会、2011 年 1 月 24 日、バックスニュー大学 (英国) 研修室
- ③ 熊谷忠和「医療ソーシャルワーカーの教育養成に関する国際比較研究」、ソーシャルワーク教育セミナー、2010 年 6 月 23 日、グランドバレイ州立大学 (米国) デフォスセンター・レセプションホール
- ④ 熊谷忠和「日本におけるソーシャルワークの教育養成」、ソーシャルワーク教育研修会、2009 年 12 月 11 日、ボーンマス大学 (英国) ソーシャルワーク社会政策センター会議室

[図書] (計 2 件)

- ① ジョナサン・パーカー、熊谷忠和、他監訳、晃洋書房、これからのソーシャルワーク実習—リフレクティブ・ラーニングのまなざしから—、2012、214。
- ② デビット・ハウ、熊谷忠和、他訳、みらい、ソーシャルワーク理論入門、2011、138-176。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

熊谷 忠和 (KUMAGAI TADAKAZU)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・准教授
研究者番号：3 0 3 4 1 6 5 5

(2) 研究分担者

橘高 通泰 (KITUTAKA MITIHIRO)
兵庫医科大学・医学部・非常勤講師
研究者番号：5 0 0 6 8 5 3 2
中島 裕 (NAKAZIMA YUTAKA)
関西福祉科学大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：7 0 3 5 3 0 0 0
井上 信次 (INOUE SINJI)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師
研究者番号：8 0 4 4 1 4 8 4
大野 まどか (OUNO MADOKA)
大阪人間科学大学・人間科学部・准教授
研究者番号：0 0 3 4 0 8 8 6
立花 直樹 (TACHIBANA NAOKI)

関西福祉科学大学・社会福祉学部・講師

研究者番号：90425380

河野 清志 (KOUNO KIYOSHI)

山陽学園短期大学・幼児教育学科・講師

研究者番号：70411717

Timothy Cleminson (TIMOTHY CLEMINSON)

川崎医療福祉大学・医療福祉マネジメント

学部・講師

研究者番号：20412265